

# 村山市消防団広報誌

第 4 号  
H18.12 発行  
村山市消防団

## 平成18年度 消防庁長官旗 受章



### 消防庁長官旗受章

編集委員長

第四分団副分団長（大久保）

菊地 幸一

快挙！九月に行われた北村山支部消防操法大会に村山市消防団代表として、自動車ポンプ一隊、小型ポンプ一隊が出場し、共に第一位を獲得しました。この成績は市の消防関係者にとって喜ばしいことであり、また団員であれば誰もが目標としています。出場した団員はもちろん、仕事の合間を割いて指導してくださった方々のおかげと心から感謝しております。合わせて消防庁長官旗を受章し、村山市にとって久しぶりの栄誉だと聞いております。

消防の始まりは江戸時代と聞いております。操法は消防活動において基本であり、如何なる時でも即座に対応できる様に習得していなければなりません。

火は有効に使えば恵み多いものですが、使い方を誤れば火災となり一瞬にして灰となる恐ろしい魔物です。そのために多種多様な災害に対応すべく、消防団は一年を通して地域の皆さんと連携しながら安心して暮らせるまちづくりを目指し、防災活動を行っております。これらの活動を行う為には、団員自らの住むまち、地域の災害への弱点をよく知っておく事が不可欠です。そのためには常に地域とのコミュニケーションを図っておく事が重要です。

これからも消防団へのご協力とご指導をよろしくお願い致します。

## 県総合防災訓練に参加して

楯岡 高橋 賢一

九月十日、早朝六時四十五分「集まれ！」の号令の下、最高幹部・消火隊の団員が市役所に整列。身の引き締まる緊張の一瞬でした。我々消防団員にとっての総合防災訓練が始まりました。第一次火災防衛訓練の担当となり、水利部署の点検や交通規制等の警備配置場所の確認等を終え現場本部を設置。九時二十分、「訓練開始」の合図で訓練が始まりました。訓練時間は約五分と短いものですが、待機場所から水利部署への移動・伝令員の報告や車両長の現場点検報告など、平日頃の訓練が如何に大事なことを改めて感じました。

二十四年前、私が入団して間もない頃、市民会館を会場に図上訓練をした記憶はあるのですが、前回の合同防災訓練の内容までは残念ながら覚えてはいません。しかし、今回は担当の訓練が終わった後、他の訓練をつぶさに見学することが出来ました。どの訓練も素晴らしいものでしたが、中でも「避難誘導・負傷者搬送訓練」で女性消防団員のきびきびとした行動が目を引きました。最後に緊張と暑さの影響もあって、閉会式で気分を悪くし倒れこむ生徒の姿も見受けられました。無事訓練の全日程が終了し安堵するとともに、気持ちちは早くも次の市防災訓練に向かっています。



## 女性消防団員として

大倉 外塚 春美

今まで女性消防団員の存在を知らなかった私は、分団長の勧めで女性消防団員になりました。

真新しい制服に身を包み望んだ辞令交付式は緊張の連続でした。出席した方々の顔も皆真剣で団員の一人として実感せざるを得ない式でした。

入団して間もなく行われた「消防大演習」では、初めて見る事もあり、あれほど大々的な訓練だとは思いませんでした。規律ある動作や号令の一つ一つが消防団活動の重要性を表しているようでした。分列行進が始まり、あまりの緊張のため佐藤市長の前を通る時、佐藤市長の顔を見た途端安心してしまい、つい笑みがこぼれてしまいました。



最後に、私が入団して良かったことは、応急手当を教わる機会があったことです。いざという時、何とかなるのではダメだということですね。どこをどうすれば良いのか、何をしなければいけないのかを学びました。ついこの前、家の近くの交差点で車同士の事故があり、現場に駆けつけ「大丈夫ですか？」と声をかけることができました。

これからも女性消防団員として、地域の皆さんと共に身近なことにも気を配り活動していきたいと思っています。

## 頑張っています！まとい連

大高根 森 修一

この度、長年にわたり組頭として頑張っていたいただいた、前五分団長の退団に伴い団長からの指示で、各分団長が持ち回りで組頭を引き継ぐこととなりました。

当初は、まとい連に関して何も知識がなく不安だらけでしたが、小頭を中心に各分野で実行委員の皆さんが「まとも役」となり、組織の充実を図っている姿が「実に立派である」と認識したところでありました。踊りの内容も、まとい連らしく、「村山市消防団」あるいは「火災予防」を大いに市民の方々や観客者に訴えたのではないだろうか。

現在、消防団への入団が問題化されている中で、まとい連も例外ではなく厳しい状況にあります。各地域の踊り団体との併用もあわせ各分団で大いに団員へ訴えていくことはもちろん、まとい連は村山市消防団の代表であるという認識を大いにアピールすることが大切であると思います。

今後のまとい連の更なる活躍、健闘を期待しお礼申し上げます。



## 消防団幹部候補特別研修に参加して

富本 菅井 明美

全国から、百三名の女性消防団員が東京に集まりました。男性社会の消防団の中で、女性消防団には何が出来るのか？大規模災害に備える常備品は何か？その時、どのような活動をすれば良いのか？など、沢山の項目を課題討議しました。男性のように力がない分、応急手当、救急療法、被災された方々の心のケアなど女性の活動は沢山あるのだと実感し、団歴の浅い私は学ぶ事ばかりでした。

研修生全員で、子供達に広めて教えようという言葉があります。もし、衣服に火がついてしまったら、慌てずに「止まれ！倒れる！転がれ！」という事です。この研修で学んだことを、今後の消防団活動に活かしていきたいと思っています。男性団員の皆様、これからも厳しく温かいご指導を宜しくお願いします。



## ポンプ交付式にあたり

西郷 太田 幸信

十月二十四日 雨の中、市長より団長へ、団長から私の元へとポンプ車の交付式が行われました。二分団車は十八年ぶりの更新ということですね。これまで幾度となく火災現場に走ってくれた分団車に心から感謝したいと思います。本当にご苦勞様でした。

今回交付され

たポンプ車は、四輪駆動車ですので冬の雪道でもいち早く現場に駆け付け消火活動が出来るのではないかと期待している所です。

ボタン一つで真空がかり、後は液晶画面を見ながら操作するので若い団員でも簡単に操作できると思います。いち早く機械の操作をマスターし、現場で活躍してほしいと願っているところです。

このポンプ車が、二分団の顔となり、長きに渡り活躍してくれると思っております。また、私達もこのポンプ車の性能に負けない様、今まで以上訓練に励み、即座に災害に対応できる様、尚一層、消防団活動に頑張る所存です。



## 消防操法大会

西郷 板垣 浩和

私は、班長に昇任してから二年目だったので今回の操法審査会には、ぜひ出場したいと部員に問いかけ、三名の操作員が決定しました。操作員からの「出るからには最優秀とつべ！」という一言を聞き、バッジを取る事を目標としていた私の心境が最優秀を取るという大きな目標へと変わりました。また、私だけでなく部をあげての目標も「最優秀取得」と掲げました。しかし、いざ練習を始めるとなかなか操作員が揃わず、全体練習が進まず操作員全員の気持ちはまだ一体化していませんと感じました。このままではいけないと思い長丁場で再度目標を確認し、やる気を奮い立たせ後半精一杯がんばりました。

その結果、これまでの訓練の甲斐あって最優秀を取ることができました。この度の操法大会までは期間が三カ月間という長期間だったため気持ちを盛り上げるのが大変でした。消防署員から「大会での目標は？」と聞かれ「金メダルを取る！」とは言ってはみたものの、練習をしてもなかなかタイムが縮まない時期もありました。しかし負けじと練習を重ねる大会三日前からタイムが縮むにつれて「いける！」と確信しました。北村山支部操法大会でも、金メダルも取れて最高です。この勝因は共に操作してくれた操作員に恵まれたこと。部長をはじめ団員の協力があつたからこそだと思えます。四部の皆さんありがとうございます”



あなたの力を、郷土のために発揮してみませんか

# 消防団員募集!!

村山市消防団では、郷土を守る心意気にあふれた、平成19年度の新入団員を募集しています。消防団員は、自分の仕事を持ちながら必要に応じ召集されて消防団活動を行います。入団すると、活動服・アポロキャップなど消防活動装備が貸与されます。また、万が一ケガをした時は、程度に応じた補償がされます。

## 消防団に入団して



富本 土海 圭介

四月に新入団員の辞令をいただいてから半年がたちました。その間、北村山支部消防操法大会で優勝できたことは、本当に幸運?であったと思います。入団して日も浅く、消防団員であるという自覚もあやふやなままに出場した大会でしたが、この経験は今後の消防活動の自信につながると思います。そしてその自信のもとに、一人の消防団員としてこれからも地域の安全・安心、そして防災のために励んでいきたいと思っています。

## 袖崎地域防災訓練に参加して



袖崎 能登 幸喜

十月二十九日、袖崎地域防災訓練が五十沢地区を会場に行われました。初めて体験する訓練ばかりでしたが、先輩団員の指導の下、無事に訓練を終えることができました。地区の皆さんも積極的に訓練に参加され、非常に高い防災意識を持っていることを感じました。

今後も訓練を通し、皆さんの期待に応えられるように頑張っていきます。

## 消防団に入団して



戸沢 細谷 菜津美

消防団。まさか私が入団するとは思っていませんでした。訓練に参加するまでは実感があまり沸きませんでした。訓練を重ねるごとに責任の重さを感じるようになりました。一日も早く先輩方のように行動できるよう、行事や訓練に積極的に参加し、頑張っていきたいです。



## 消防団に入団して



大高根 矢作 達也

村山市消防団に入団して半年が過ぎましたが、最初は不安でいっぱいでした。何も分からないまま、ただ見よう見まねで先輩方の足を引っ張らないようにすることで精一杯でした。しかし、先輩方のご指導の下、不安も無くなり沢山の貴重な経験をさせていただきました。

これからは、先輩方と共に消防団員として地域に貢献していきたいと思っています。

## 消防大演習



大久保 高谷 寿志

生まれは西川町で三人兄弟の次男です。「長男は消防団に入るべきだ」として兄が入団していました。西川町では消防操法大会の練習を朝四時頃から行っています。私は大変だと思いが無いことを願っていました。今年入団し消防大演習や消防操法大会に参加し改めて消防団の大切さが分かり、万が一自分に災害がふりかかった時、これは義務だなあと感じるようになりました。これからは消防団を通じて知人を増やし地域に少しでも貢献できるように頑張ります。

## 「ラッパ隊」隊員募集!

伝統ある村山市消防団ラッパ隊。初心者も大歓迎です。興味のある方、入隊しませんか。

## 編集委員

- 委員長 第四分団副分団長・菊地 幸一
- 副委員長 第五分団副分団長・宮林 善吉
- 委員 第一分団副分団長・田中 雅幸
- 第二分団副分団長・高橋 昭
- 第三分団副分団長・齋藤 吉美
- 第六分団副分団長・三浦 純一
- 第七分団副分団長・永岡 達男
- 第八分団副分団長・大田 一重

広報誌に関するご意見・ご感想は消防本部 〇五五―二五一四までお寄せください。